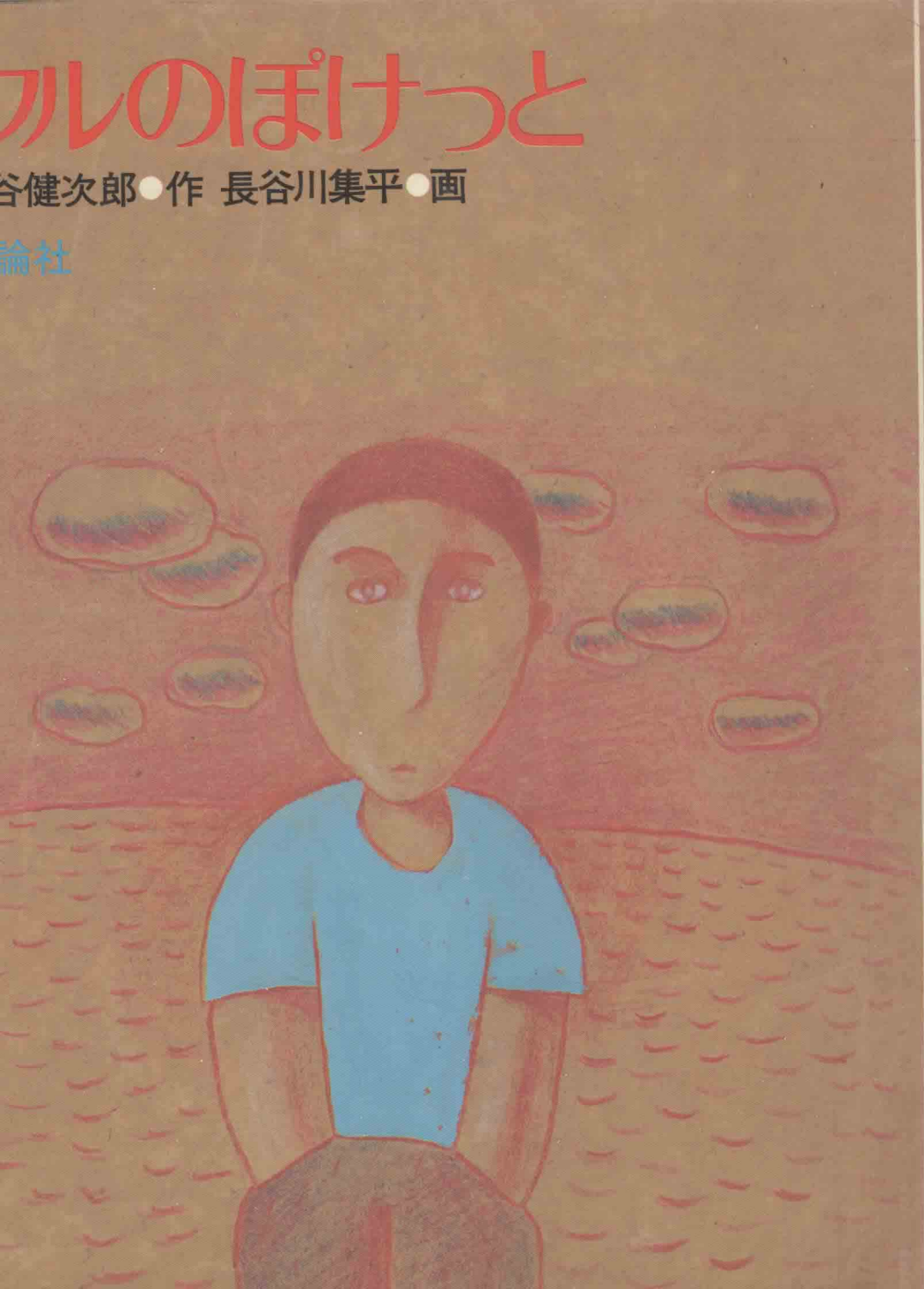
ルのぽけっと

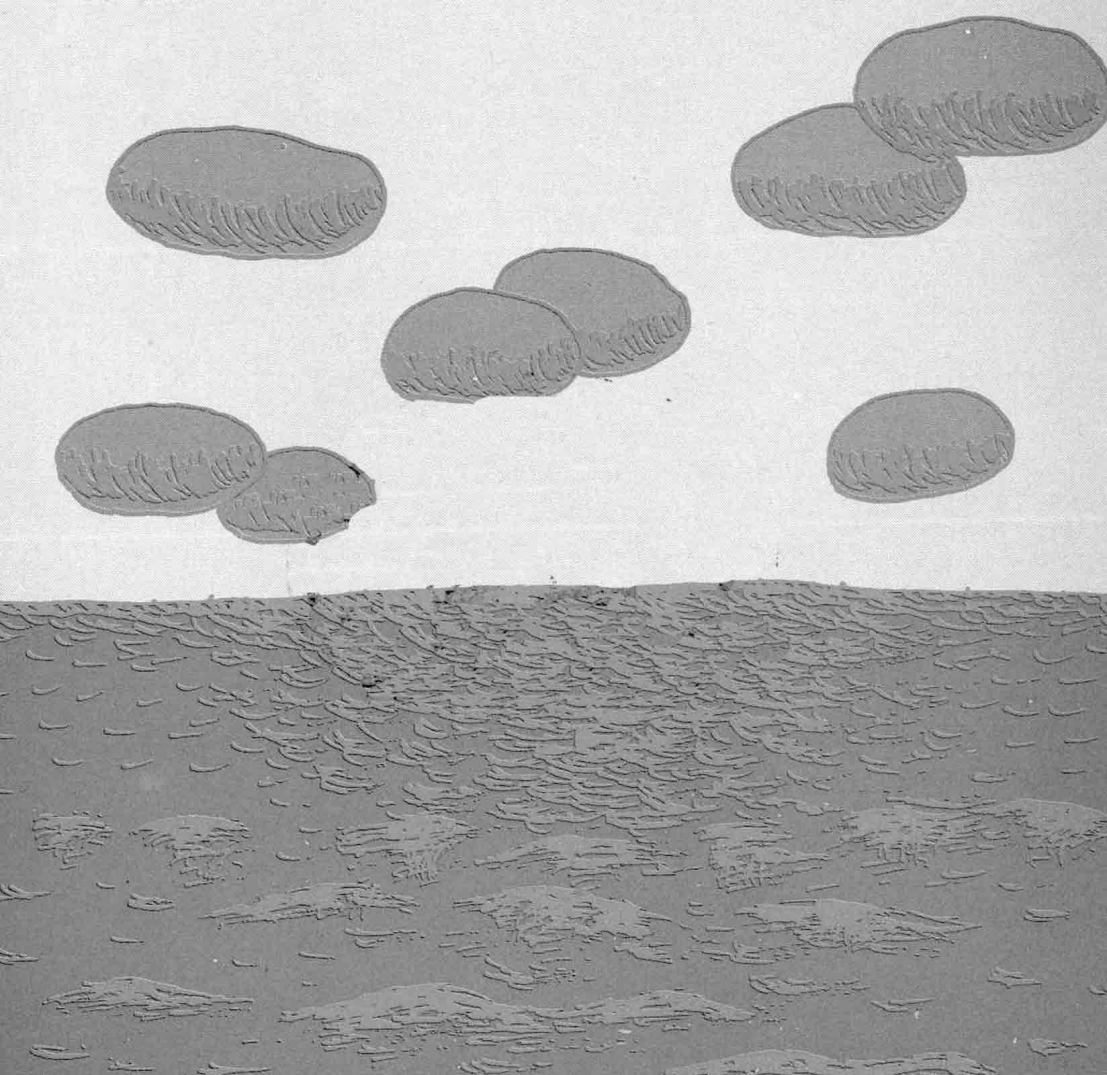
谷健次郎●作 長谷川集平●画

論社



ワルのぽけっと

灰谷健次郎＝作
長谷川集平＝画



作者紹介

灰谷健次郎（はいたにけんじろう）

神戸に生まれる。詩誌「輪」同人。児童詩誌「きりん」の編集を手伝う。17年間の小学校教師生活ののち、沖縄・アジアを歩く。1974年「兎の眼」を発表し、静かな感動を呼ぶ。1979年、山本有三記念第1回「路傍の石」文学賞受賞。作品に「兎の眼」「太陽の子」「せんせいけらいになれ」〔いずれも理論社〕他。

住所＝兵庫県津名郡北淡町黒谷

ワルのぽけっと

1979年11月初版 A5変型判203×151 NDC913

作者 灰谷健次郎

画家 長谷川集平

1981年6月 第七刷発行

制作 小宮山量平 発行 山村光司

発行

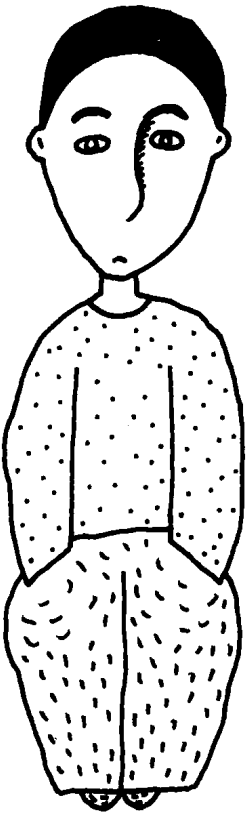
理論社

東京都新宿区若松町104

振替東京9-95736

電話203-5791

ワルのぽけっと



おもな人物（じんぶつ）

八人のなかま＝6年生

男の子　セイゾウ

男の子　ダボ

男の子　オタやん

男の子　ツーツーレロレロ

男の子　あーしんど

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

男の子　アカンタレ

女の子　トメコ

女の子　ソーメン

そして

椛島先生（かばしま）

オバン

その他

そうてい・さしえ

長谷川集平（はせがわしゅうへい）

1

ぽけっとは獲物でいっぱいだった。

直径五センチもあるラムネの玉、ゴム製のヘビ、三色ボールペン、板チョコ、香水入りのケシゴム、銀紙でつつんだキャンデー、木ゴマ、ABCのゴム印……。まだまだあった。ぽけっとは、ぽんぽんにふくらんでいた。

「ええ匂いしよるなあ」

と、セイゾウはラムネの玉をくんくんかぎながらいった。

「あほか。ラムネの玉から匂いが出るわけないやろ」

ダボがさからった。

「夕焼けの匂いや」

「ええかげんにさらせ」

「ほんまや。うそやとおもうねんやったら、匂いかいでみィ。そやけどその前に、片眼でラムネの玉の中をのぞいてみなあかんぞ」
ほんまかいなといいながら、それでもダボはセイゾウにいわれたとおりにした。
ラムネの玉の中には赤いガラスが少し流しこまれてあった。
「ほんまや。夕焼けみたいや」
ダボはびっくりしていった。
「みてみィ。うそやないやろ」
ダボはラムネの玉を鼻先に持っていった。
「へえー。これが夕焼けの匂いか」
「そや。ええ匂いやろ」
セイゾウもダボも満足した。
オタやんもツーツーレロレロもトメコもソーメンも、あーしんど

もアカンタレも、きょうはみんな満足だった。
「きょうはアカンタレが、つかまらなかったもんな」
オタやんは三回も同じことをいった。
「そや。きょうはアカンタレがつかまらなかったもんな」
ツーツーレロレロは三回、同じ返事をした。
アカンタレは六年生だが、からだの成長も知恵の発達も少しおくれている。
みんなでデパートやスーパーマーケットにいく時は、アカンタレのことでいつもいい争いになった。アカンタレをおいていこ、というのは、トメコだ。つかまったらかわいそうやというのが、その理由だ。
じっさい、アカンタレはたびたびつかまってはガードマンにぶんなぐられた。

つかまってなぐられてもアカンタレをつれていこ、というのはセイゾウだ。

アカンタレもわいらの仲間やろ、つかまってなぐられるより、仲間はずれにされるほうがつらいやろ……セイゾウはそういうのだ。

そんなふうにいい争いになるけれど、けっきょくみんなはアカンタレをつれていくことになる。アカンタレをおいていく話をしていると、アカンタレがほんとうにかなしそうな顔をするからだ。しかし、今回はアカンタレはつかまらなかった。

「歌、うとて帰ろか」

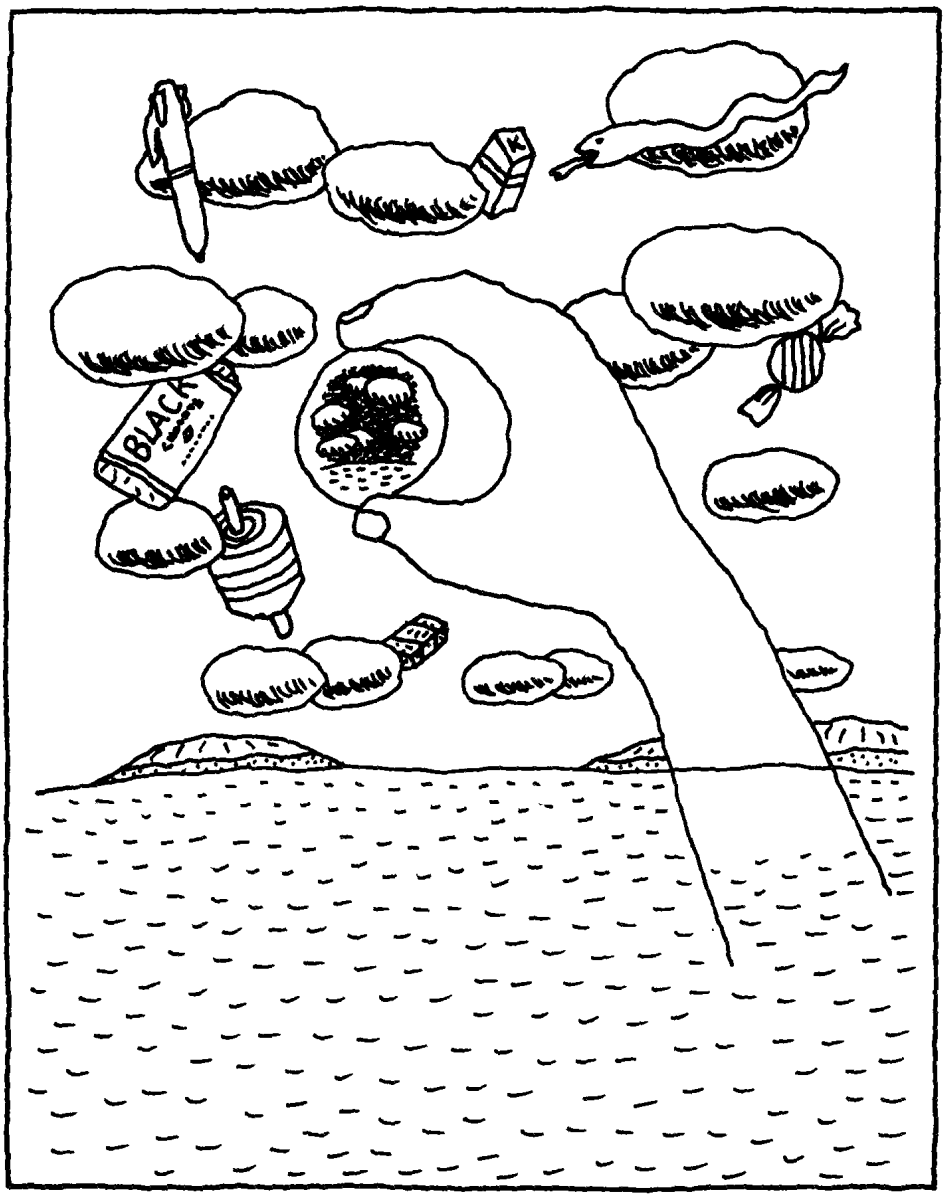
あーしんどがいった。

「さんせい」と、オタやんがいった。

「あほ」と、トメコが反対をした。

「なんでや」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com


K
BLACK

「なんぼアカンタレがつかまらなかったからいうて、歌、うとて帰るほど、うちらええことしてえへんねんで」

トメコにそういわれて、みんな、ちょっとしらけた気分になった。

セイゾウがいった。

「チョコレートもラムネの玉もボールペンも、いつかだれかの持ち物になるんやろ。お金を持って買いにいくのをまってたら、わいら、ほかのやつに、チョコレートやボールペンをとられてしまうやないか。そんなん不公平や。わいらかて、チョコレート食う権利あるやろ」

「そやなあ」

と、ダボは神妙な顔つきでいったのだった。

2

「小学生とは思えん悪いことをする。万引きだなんて、じつに不名誉な……」

六年主任の横田先生は、そういって怒った。

（なんでバレたんやろ。アカンタレもつかまってないのに……。だれがつげ口をしたんやろ）

校長室に立たされている八人は、みな同じことを思っていた。

一年から六年の主任の先生とセイゾウたちの担任が、校長室にいた。

「一年生が大切に育てている草花の鉢を、通りすがりに足げにしてこわしていくんです。ほんとにこの子たちには、やさしさというものがあるんでしょうか」

一年の主任がいった。

（あの時はアカンタレが、あやまって鉢につまずいたんや。アカン

タレひとり叱られるのはかわいそうやから、ついでにわいらも鉢、こわしてやっただけや）

そやけど、いいわけしたらあかん、センコにいいわけするやつは人間のカスやと、みんなは思った。

「わたしのクラスでは、物かげにつれこまれて小づかいをまきあげられた子がいるんです。被害を受けた子は気の小さい子だったものですから、それ以来、その子はおびえて学校にくるのをいやがるようになったくらいです」

五年の主任はそういった。

（それは違うワ。あのガキは家から金を持ち出して、ひとにおごってやっては友だちを自分のけらいのようにしとるけったくその悪いやつやさかいに、わいらが天罰をくわえてやったんや）

そやけど、いいわけはせえへんで、センコにいいわけをしたら、

あのけったくその悪いガキといっしょになってしまうさかいな、と、やっぱりみんな思った。

「手に負えんワルやな」

苦虫をかみつぶしたような顔をして教頭先生はいった。

「悪い芽は早く摘んでおかんといかんな」

と、校長先生もいった。

「おまえら、ちいと反省しとるんか」

横田先生がいったが、だれも返事をしなかった。

「こらっ！」

横田先生はどなった。

ソーメンがぴくんとからだをふるわせた。八人のうち、トメコとソーメンは女の子だが、からだの細いソーメンは、トメコとくらべるとずっと気が小さい。

「ここへおまえたちの親を呼ぼうか、それとも、警察へつき出そうか」

横田先生は八人をおどした。

ソーメンがひいーと泣き出した。

3

ソーメンは親一人子一人だった。

ソーメンの父親は公害病患者だったが、公害病患者の認定を受ける前に死んでしまった。

病院が証明を出さないので、補償もなにも受けられないのだった。

ソーメンのからだが小さく細いのは父親ゆずりなのである。

ソーメンのいちばんうれしい時は、母親に、

「おまえは親孝行な子だねえ」

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com